

令和8年度（2026年度）金沢大学法科大学院社会人特別選抜入試

【課題】

論理的に考えるということは、学術のみならずビジネスや教育、日常の判断に至るまで幅広い分野でその重要性和必要性が指摘されている。世界共通で不変のように語られている論理的思考だが、そもそも論理的であるとはどのようなことなのか、論理／非論理の線引きは何によって行われるのか。論理的に思考する方法は本当にひとつなのか。

上記は、渡邊雅子『論理的思考とは何か』（岩波新書・2024年、以下「本書」という。）の「はじめに」から一部を原文のまま抜粋した、論理的思考に関する問題提起である。本書を読み、次の2点について、合計で3000字～3600字のレポートにまとめなさい。なお、本問は法学的知識を問うものではない。

- 1 「論理的である」ということを本書がどう定義しているかを示しつつ、論理的思考と文化の関係を本書はどのように捉えているか、「経済」、「政治」、「法技術」、「社会」の各領域から説明しなさい（50点）。
- 2 法律家は、その職務において論理的に思考・記述することが求められるが、そこにいう「論理的である」ということはどのようなことか。1で述べたこととも関連付けつつ、自身の考える「論理的である」ということを説明しなさい（50点）。